

ベルトークンのレポートについて

IR（インディペンデント リサーチ）アナリストレポート

企業は通常自らの会社について多くの情報を持っている。企業におけるIR（インベスターズ・リレーションズ）は情報優位者である。これに対して、企業の発信する情報を受け止め、投資家が知りたい情報を企業に要求し、それらを加工作して、将来の予想に役立てるのがアナリストの役割である。このインベスターサイドにたつアナリストが情報優位者になれば、投資家の信頼も高まろう。しかし、現実にはビジネスの場面では、こうした双方向のやりとりは限られている。大手の機関投資家であっても求める企業のカバレッジは限られるからである。機関投資家がいなくても、さまざまな企業を見る個人投資家がいるのではないか、という考え方もあるが、それは建前であって現実には不十分である。上場会社は3500社ほどあるので、小さい会社には十分目が届かない。大半の企業のIR情報は、企業の努力にもかかわらず、市場には必ずしも十分届いていないといってもよい。企業が発信した情報に対して、それは本当か、なぜそうなのか、と問うことによって良い緊張関係を生むアナリストの役割は重要である。しかし、それを担うアナリストは少ない。ここを補完するアナリストが求められる所以である。私は、その役割を担うアナリストを、IRアナリスト（インディペンデント・リサーチ・アナリスト）と呼んでいる。企業のIRとの架け橋になるという意味も込めて、私自身IRアナリストとして日々活動している。IRアナリストレポートは、会社側の立場に立つものではない。企業をよく理解して、投資に役立てようという人のために書いている。1人のレポートでは不十分である。1社について、3人のアナリストからレポートが出てくると、本当に役立つ用になるだろう。1人でも多くのアナリストが、IRアナリストとして参加してくることを期待している。

IRアナリストレポートの原則

ベル企業レポートはリニューしながら年4回程度発行する。それ以外にも大きな変化があった場合は適宜出す。レポートは必ずトップインタビューを実施し、独自の分析に基づいて書く。レポートの全責任は当社及び担当アナリストが持つ。レポートは会社側の確認を得て事実誤認のないようにするが、アナリストの意見に関わる箇所については一切の干渉を受けない。投資家が知りたいことをアナリストの立場からまとめるので、会社側の立場に立つものではないことを必ず事前に説明し了解を得る。当社のホームページに掲載して、誰でも閲覧できるようにするが、開示に当たっては、フロントランニングの無いように管理する。内部情報に関わるような情報（法人関係情報）を入手した場合は情報管理を徹底し、レポートの発行は行わない。当レポートを他に配信することがある。投資家向け講演会で活用することがある。海外でいうカンパニー・スポンサード・レポートにあたるが、これをIRアナリストレポートと称して、以下のように定義する。「本レポートは、独自の視点から書いており、基本的に会社側の立場に立つものではない。本レポートは、投資家の当該企業に対する理解促進をサポートすることを目的としており、投資の推奨、勧誘、助言を与えるものではない。内容については、担当アナリストが全責任を持つが、投資家の投資判断については一切関知しない。本レポートは上記作成者の見解を述べたもので、許可無く使用してはならない。」 レポートの配信に当たっては、スポンサー料を当該企業から得る場合がある。また、配信料、情報提供料などを他の企業から得ることもある。特定の投資家から個別に情報料を得ることはない。当社及び担当アナリストが当該企業の株式を保有する場合は、その保有状況をレポートの中で必ず開示する。

本レポートは、独自の視点から書いており、基本的に会社側の立場に立つものではない。本レポートは、投資家の当該企業に対する理解促進をサポートすることを目的としており、投資の推奨、勧誘、助言を与えるものではない。内容については、担当アナリストが全責任を持つが、投資家の投資判断については一切関知しない。本レポートは上記作成者の見解を述べたもので、許可無く使用してはならない。